

波が泣く

森野 水琴

彼は次に彼女と再会する海を眺めている。
来週逢う約束なのだが、待ちきれずに彼は来てしまった。
穏やかな海は、時折りの風がさざ波を海辺にいざなう。
強風の時に見られる波の花も今は見られない。
海が穏やかであればあるほど逢いたくなってしまうのは何故だろう。
時を忘れて彼は海を眺め続けている。

赤い夕焼けと 黒い夜に染められて 波が泣く